

- | |
|--|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例
B. 円滑な学位授与の促進
⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実 |
|--|

特に効果的であり改善に資した事例について

B. 円滑な学位授与の促進

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

《理工農系》

●奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科

「2 コース制によるバイオ人材育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本プログラムでは、複数教員による定期的なヒアリングを通じて、入学から修了まで継続的に学生の研究や学習の到達度を正確に把握し評価して的確な助言を与えることで、研究指導の充実を目指した。評価は点数のみによるものではなく、項目ごとにアドバイザーが文章で書くことにより、優れた点と問題点を詳細に指摘する必要がある。このため、多種類の文書を学生ごとに管理できる電子教育カルテシステムを構築した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

市販の教務システムやコース管理システムに頼らず、将来、全学的に統一したシステムで活用することも視点に入れて開発した。学生は、各種ヒアリングで要求される報告書やその要旨を一定の書式でオンライン入力し、必要に応じて修正したあと主指導教員とアドバイザーに提示する。指導教員とアドバイザーは定期的な研究評価と助言など、文章による評価をオンライン入力し保管する。学生、教員とも、在学期間の全ての報告書と評価をいつでも容易に閲覧できるものとした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

教員については、場合により20人以上にもものぼる担当学生の学習・研究の進行を経時的に把握して、進歩した点と停滞している点を容易に把握でき、的確な指導ができるようになった。学生については、自分の研究の進捗状況を客観的に把握するとともに、アドバイザーからの評価を、点数ではなく具体的な事項の指摘として受けることにより、より容易に改善を図れるようになった。